

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◇◆◇ No.0591 ◇◆◇

20/07/08

## 【次期米大統領はトランプ or バイデン、為替相場の行方は如何に!?】

投票まで4か月を切った米大統領選について、当レターでも何度か取り上げているが、ミネソタ州ミネアポリスで黒人のフロイド氏が白人警官に殺害されたとされる事件が起きて以降、米国の世論調査においてバイデン氏優勢の傾向が強まっている感は否めないだろう。いみじくもボルトン前米大統領補佐官がインタビューで指摘した「トランプ氏、一期だけの大統領として記憶されることを願う」一語が現実のものになろうとしているのかもしれない。

そんな、米大統領選で現職のトランプ氏が仮に敗れた場合、為替を中心とした金融市場に何か変化は起こるのだろうか。いま現在わかっている範囲内で予想してみたい。

### << 共和党政権は「円高」、民主党政権は「横這い」or「円安」が多い >>

まずは、トランプ氏とバイデン氏、候補者それぞれの政策などを考える前に、過去の経験則を振り返っておく。それによると、1971年の変動相場制以降の値動きを調べてみた場合、米共和党候補が勝利した共和党政権下では「円高」が進む展開が多く、対して民主党政権下では「円安」あるいは「横這い」に推移するケースが目につく傾向がうかがえる。

そのなかでも、とくに顕著であるのが、共和党政権下における「円高」の進行か。典型事例は1971年の「ニクソンショック」を実施したニクソン氏(37代)、そして1985年「プラザ合意」のレーガン氏(40代)だろうが、それ以外でも1974-77年のフォード氏(38代)、ブッシュ・シニア氏(41代)、ブッシュJr氏(43代)の時代とも、為替市場においてはかなりの円高進行が見取れる。

また、2017年1月20日、第45代の米大統領に就任した現在のトランプ氏も同様で、就任前後のドル/円相場がおおむね115円前後だったのに対し、足もとは107-108円。仮に、このままの状況で任期を終えるとしても、価格ベースで7-8円、率に換算して5%以上のドル安・円高が進行した計算だ。

対して、民主党政権下では逆に「円安」方向に動く傾向がうかがえるものの、「就任前後から一本調子に円安」一語などといったものではなく、いわゆる“行って来い”など、「結果として」「最終的に」円安傾向で終わるというパターンが多い。

たとえば、クリントン氏(42代)が大統領に就任した1993年はじめのドル/円は120円以上のレベルで推移していたが、それが1995年には79.75円までドル安・円高が進行したことは周知のとおり。しかし、そこから大きく切り返すと、任期末である2000年後半には115円台まで戻している。

ともかく、今回でいえば、改めて指摘するまでもなく現職のトランプ氏は共和党所属、対するバイデン氏は民主党所属となる。トランプ氏が再選、引き続き大統領職に就いた際、経験則的には今後4年でさらに円高が進行。1ドル=100円を割り込むような局面をたどっても決して不思議ではないのかもしれない。

逆にバイデン氏勝利で終われば、ドル/円は右往左往をたどりつつも、緩やかなドル高へと向かうことになりそうだ。

### << トランプ氏は「ドル高論者」へ転換!? 対してバイデン氏は!? >>

一方、以下では、トランプ氏とバイデン氏それぞれの発言などから、金融政策や為替市場へのスタンスを考えてみたい。

トランプ氏は長年、米製造業者や輸出業者のためにドル安・円高を求める「ドル安論者」として知られてきた。しかし、5月20日の当レターなどで何度か報じているように、ここに来て、その発言内容をめぐり「ドル高支持者」へと鞍替えした可能性が取り沙汰されている。

詳細はバックナンバーに当たってもらうとして、それからすると、前述した「共和党政権時は円高」という経験則とは裏腹の動き。少なくとも、次の任期の4年間ずっと「円高傾向」が続くことは見込みにくい気もしないではない。

対するバイデン氏は全体として「中道寄り」とされるが、為替面でのスタンスはハッキリしておらず、大統領

選における掲げた政策にも手掛かりとなりそうな項目がない。

つまり、判然としないという状況なのだが、同氏はトランプ氏が推進してきた法人減税や規制緩和を巻き戻す恐れがあるとの見方がまずは有力だ。また、自身が副大統領を務めていたオバマ政権時の政策回帰を考えているとされるとの指摘も聞かれており、それらが事実とすれば厳しい態度を取り続けるという意味での対中政策は変わらないものの、対照的に欧州・日本との同盟関係強化をさらなる強める公算が大きく、結果として対日や対欧州への貿易圧力などはやや減退する可能性もある。その場合には、前記した過去の経験則に沿った「横這い」あるいは「円安」有利という話になりそうなのだが、果たして実際のところはどのようなのだろうか？（了）



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter